

いすみ



第 127 号

2026 年 1 月
日本野鳥の会三重 <http://miebird.org/>

コシアカツバメのコロニーの観察と保護

桑名市 横山 真一



1. はじめに

以前、桑名市から東員町に向かう県道142号線の嘉例川を越える新嘉例川橋に巣の総数が100個を超える大規模なコシアカツバメのコロニーがあった。コロニーとはどんなものか興味深かったので観察・記録していたが、2009年の周辺の圃場整理の際に放棄され、コシアカツバメたちは学校の建物や道路橋の下に巣を作るなどして散らばっていった。

環境省のウェブサイト「いきものろぐ」の「都道府県絶滅危惧種検索」でコシアカツバメを検索した結果、コシアカツバメは三重県を除く30の都府県で絶滅危惧I類から、大切にすべき野生生物に至るまでの何らかのカテゴリーで絶滅危惧種に指定されている。



コシアカツバメのコロニーができた橋

2. コロニーの復活

コシアカツバメがたくさん飛んでいる…との情報をもらって桑名市西郊の団地公園に行ってみたのは2021年の6月で、公園をまたぐ橋の下に巣の数が29個のコロニーができていた。コシアカツバメは普段話題になる事が少なく、生息分布や生態、

目次

コシアカツバメのコロニーの観察と保護	2
表紙の言葉	2
第29回中部ブロック会議(富山)の報告	4
和具大島に行きました	5
紀北町大島 鳥類調査	6
離島に棲むハト、カラスバト	7
第1回 シギチドリ調査の結果	10
2025年タカの渡り報告	12
探鳥会リーダーズフォーラムに参加して	14
推しの一枚 コウノトリ	16
シロガシラ	16
野鳥記録	17
理事会報告	20
事務局だより	20
探鳥会予告(2026年1月~3月)	21
探鳥会報告(2025年7月~2025年11月)	21
編集後記	24

表紙の言葉

ルリビタキ

津市 平井 正志

三重では冬に見られる小型のツグミ。青い鳥。我が家にジョウビタキは毎年のように来るのだが、ルリビタキは来たことがない。いつも公園の散歩道でも見かけない。ごく稀に会うくらいであった。

繁殖は中部山岳地帯の高山帯や亜高山帯、富士山周辺、北海道道東、北海道中央高地などである。若い頃、南アルプス、北アルプスへ重い荷物を担いでさんざん登ったが、その頃には鳥に特別の興味を持っていなかった。時にはイヌワシやクマタカは大きく、鳴き声が鋭いので稀ではあるが、見かけた。しかし、この小さな鳥が近くで囁いていても、早くテント場について、背中の荷物を降ろしたい方が先で、気づかなかつたのであろう。

以前、静岡県、清水に住んでいた時、富士山周辺はさんざん回ったが、ついぞこの鳥を見かけたことがなかった。退職後、北海道の稚内で夏を過ごすようになったが、付近でルリビタキは繁殖していない。どうやら、この鳥との接点はほとんどなく、あこがれの青い鳥で終わりそうである。

コロニーなどについてネットでいろいろと調べた。生態などの知識はある程度得られたが、コロニーを長期間にわたって観察した記録は見つからなかった。そこで、せっかく近くにコロニーができるので、変化していく過程やコシアカツバメの生態を観察・記録して残したいと考え、その思いを実行に移してから今年で5年目になった。

公園をまたぐ橋は高さは10m前後、長さは約60m、幅が約20mもある大きなものでコロニーのスペースは十分すぎるくらい広かった。自宅から車で5分と近いことと、橋の下が日陰になって真夏でも比較的涼しかったことから7月から週に2回の観察を始め、巣の数、利用数や巣立ちした巣の数などを数えた。またコシアカツバメたちの行動を観察して記録した。橋は下部にインフラ施設を抱えた巨大な構造物で、夏の暑さを遮ってくれたおかげで観察を続けられた。

この年の巣の数は29巣でそのうち21巣が使われ、14巣で14回の巣立ちがあった。この間に巣立ったヒナの数は50羽前後と推定される。

3. コロニーの周辺環境

公園のある場所は大型の団地内で、コロニーから南側半分は2km圏まで戸建ての住宅が並んでいる。北側半分は畑を中心とした農地が2km圏まで広がり、東側は1km圏まで水田が広がっている。コシシカツバメはツバメと同じく空中で虫を捕えて餌とする。まとまって飛んでいる場所は見つけられなかったが、団地周辺は起伏が多く上昇気流が起きやすいのでその環境がコロニーを維持していると推定した。

4. 観察内容

翌年からはコシアカツバメ（以後ツバメと表記する）が飛来して繁殖を始める4月中旬から9月までの半年間にわたって、週に2～3回の観察を始めた。

巣の配置図を作成して、それぞれの巣に番号を付けた。それらの巣を基本としてどんどん作られる新しい巣には枝番号を付け、コロニーが大きく成長していく過程を調査した。ツバメが使っている巣・ス

表 桑名市のコシアカツバメコロニーの概要

観察年	8月末 巣数	巣立ち 巣数	巣立ち 回数	巣立ち ヒナ数
2021	29	14	14	約50
2024	60	34	49	180
2025	91	46	60	210

ズメに乗っ取られた巣・破損して消滅した巣の数と位置をすべて記録した。また、新しく作られた巣・破損した巣と修理された巣・巣立ちの有った巣・2回巣立ちの有った巣などの数とそれぞれの配置についても記録を続けた。

さらに、全ての巣への出入りを中心に観察し、コシアカツバメの行動についても詳しく記録した。その対象は、「抱卵開始、雛の孵化と給餌開始の推定、雛に与える餌、巣の下に落ちている糞の量から雛の数の推定、巣作りの様子、泥団子の作り方である。これらを2～3時間かけて観察・記録した。

21年の秋には29巣だった巣の数は2024年には60巣に増え、34巣で49回の巣立ちが有った。24年に巣立ったヒナの数は推定で180羽にも達する。

5. 困ったことが

橋の高さは10m位で、下には散策路があるのでツバメたちと人との距離は近い。この場所を選んだのはツバメたちなので、最初は特にこの場所を保護する必要性を感じなかった。しかし、巣の数が増えるにつれて困った事が起きてきた。ツバメが減っている原因の一つともなっている糞の問題である。

ツバメたちは雛が孵ると給餌しながら巣の中の雛の糞を咥えて飛び出し、所かまわず捨てていく。また雛が巣立つことで個体数が増え、巣の下の散策路に糞をまき散らす。陽の当たる場所、雨の当たる場所であれば風化して消えていくが、陽も雨も当たらない橋の下は汚れが溜まるばかりで、舗装された通路の汚れが特に酷くなっていた。

橋の下は土・日、周辺の子供たちの遊び場になり、平日も幼児や園舎を持たない保育園の園庭になっている。ツバメの糞で汚れるコロニーの存在は、公園利用者にとって迷惑な存在でしかない。公園管理者に苦情が入って巣が撤去されるのを恐れ、汚れが目立ってきたら水と箒を持参し、自分で掃除を行った。

自分が観察している間はそれでもいいが、できなくなったらこの問題は無視できなくなるのは必至。そこで近藤代表にコロニーの観察データをお渡しして現状を報告し、コロニーの保護について相談した。近藤代表は市の公園管理部署に連絡を取ってコロニーの保護を要請した。また、野鳥の会三重の保護対象に指定していただいた。これで観察記録は野鳥の会で保管していただけることになった。

6. 2025 年の状況

本年は 4 月 14 日に初飛来を確認。昨年より全体的に子育てが遅れ、最後の巣立ちは 10 月 9 日までずれ込んだものの、昨年より巣の数が 31 個増えて 91 巣に達した。巣の利用率が総数の半分程度なのは、コロニーが拡大していく過程を記録するために新築途中で放棄されているもの・スズメに奪われたもの・破損したままのもの・消滅したものなど、これまでに存在した巣の全てを含めているためである。この中で目立つのはスズメの乗っ取りで、2025 年には 23 個の巣が乗っ取られたまま、または過去に乗っ取られたまま放棄されている。

これらの巣は長い時間を経て破損して消滅するか、ツバメによって補修されて再利用される。こうした循環はコロニーの延命に役立っているのではないかと考えるようになった。新嘉例川橋のコロニーが突然放棄された例を考えるとコロニーには寿命があるようだ。スペースが飽和状態になるか巣内環境の悪化によるものと推定するが、それについて長いスパンでの観察と考察を要するので、2026 年以降も観察を続けたい。

2025 年の子育ては野鳥の会のご支援によって無事に終了しました。深く感謝いたします。

第 29 回中部ブロック会議（富山）の報告

四日市市 三曾田 明

2025 年 10 月 11 日・12 日、富山県富山市で中部ブロック会議が開催された。中部ブロックは三重県を含む 10 県の各支部で構成され、コロナ禍の 2020 年～2023 年を除き毎年開催されており、今回は当会から理事 3 名が参加した。

講演では「湯浅純孝鳥類標本コレクションについて」（高畠晃・富山支部）と題して、湯浅氏（故人）が収集した日本産・ロシア産の合計 1,410 点の鳥類標本について解説があった。その中には日本初記録となるものをはじめとする大変貴重な

標本も含まれていることが紹介された。また各支部からの報告では、「新潟県におけるトラフズクの繁殖状況」（新潟支部）、「佐渡のトキについて」（佐渡支部）と題してあまり知られていないトキの生態に関する興味深い報告などが行われた。

2026 年は山梨、2027 年は三重での開催が予定されている。三重での開催にあたっては、スタッフとして会員の協力が欠かせない。開催内容が決まり次第、改めて紙面で告知する。



和具大島に行きました



志摩市 井上 梓

2025年7月6日（日）、伊勢志摩国立公園担当の環境省職員さん、志摩半島野生生物研究会が和具大島で行なうウミガメ調査に、中西章さんと同行しました。和具大島は三重県志摩市の太平洋上2.5kmの沖合にある無人島です。住所は三重県志摩市志摩町和具4186。

当日の天気は晴れ。気温は30度を超えていました。和具大島はウチヤマセンニュウ (*Locustella pleskei* センニュウ科 センニュウ属ウチヤマセンニュウ) の繁殖地として知られています。

ウチヤマセンニュウは冬季は中国南部で越冬しますが、夏季には日本や朝鮮半島周辺の島嶼で繁殖します。全長は17cmです。

中西さんとウチヤマセンニュウを探しました。ウチヤマセンニュウは、1個体がハマウドの上に出てさえずっていました。目視で確認したのは3個体。1個体は松の木にいました。中西さんによると鳴き交わしの数から5つがいほどいるのではないかということでした。

また、島の砂浜には、コアジサシが50羽ほどいました。コアジサシが繁殖しているかどうかを探してみました。ひなや幼鳥は見つけられませんでした。鳥の卵の殻を発見しました。卵の殻は、コアジサシやシロチドリの卵によく似た柄をしていました。浜にはコアジサシ以外にシロチドリもいたので、コアジサシのものかは分かりません。コアジサシやシロチドリが繁殖している可能性もあるかもしれません。



堤防から見た和具大島の砂浜



松の枝を歩くウチヤマセンニュウ